



153

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2019 1/1

事務局：〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 狭山研修センター：〒350-1315 埼玉県狭山市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝沢研修センター：〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

2面・3面 巡回公演だより／園からの声
 4面 日本芸術文化振興会助成事業全国巡回公演／園からのおたより／制作だより ほか

<http://www.suginoko.org/>

E-mail: support@suginoko.org

創造社会の未来と演育

理事長 大場 隆志

新年、明けましておめでとうございます。

皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆様におかれまして本年も素敵な一年となりますよう心からお祈り申し上げます。

私が理事長に就任して二回目の新しい年を迎えることとなり、今年の目標はすぎのこ芸術文化振興

会の「演育」を発展させていくことと思っております。

昨年の十一月に「演育」という名称は、すぎのこ芸術文化振興会の登録商標に認定されました。これを機に、演劇教育としての「演育」を多くの人が学びたいと思う表現力や創造力を養える教育内容に構築していきます。

日本経団連によると社会の発展は五段階に分けられると言われて



演育・埼玉県飯能市 富士見わんぱくクラブに於いて

おり、狩猟社会、農耕社会、工業社会、情報社会、そしてこれからの創造社会の五段階であるとしています。

社会の発展の歴史を簡単に説明すると次のような感じになると思います。

狩猟社会の時代は、毎日外に出かけて家族のために食糧を集めます。その時代は他に食糧を取る方法を知りません。

そこへある人が農民というものにならないかと誘ってきました。

その人を観察していると、地面をひつかいて、そこへ小さな種を播いていきます。土に水を掛けたり雑草を取り除いたりしています。すぐに何もしません。その後、豊かな収穫の時期を迎えます。農民であるその人は、狩猟採集しか知らない人よりも五十倍もの収穫を得ているようです。

それを見たときにあなたはそれを熱心に学ぼうとするはずで。そして狩猟採集をしていた人は農民となり、農耕社会初期には狩猟採集をする人は1割以下にまで減少しました。

やがて時代は工業社会へと移り変わります。新しい製造ラインを発明して、高い生産性を発揮します。このときの工場での生産性は農場に比べて、さらに五十倍にまで膨れ上がりました。やがて農民の数は1割以下まで減少していきます。そして今まさに情報社会の

時代へと移行してきました。情報社会はご存知の通り、コンピュータによる迅速な情報処理と多様な通信メディアによる広範な情報伝達によって大量の情報が不断に生産、蓄積、伝播される社会で、コンピュータやネットワークによって、情報の送受信が自由にでき、人間の行動分析から予測して、商品の生産や管理ができるようになりました。

私たちの生活の中でもパソコンやスマートフォンが欠かせないものとなっていることから想像できるといいます。そういう意味では、情報社会の生産性は工業社会の五十倍になるのではないかと思います。

そしてこれからの時代は創造社会へと移行しつつあります。果たして情報社会の五十倍の成果を出すことができるでしょうか。私はできると思います。今はその兆しか見えませんが、やがて達成されると思います。五倍でも十倍でもなく、五十倍もしくはそれ以上です。

創造社会は、さまざまな制約から解放され、誰もが、いつでもどこでも、安心して、自然と共生しながら、価値を生み出す社会で、デジタル革新と様々な人々の想像と創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会であると言われています。

工業社会の繁栄の主要因は機械と資本、つまり物でした。人は必要でしたが、他の人と置き換えることができる存在でした。問題は情報社会から創造社会へと移行していく時代でもあるにも関わらず、教育と労働の在り方が、まだ

工業社会のままであることです。労働では、採用、昇進、評価、給与、福利厚生に至るまで、依然として工業時代のままであり、その中で人材コストは経費とみなされ、設備や機械などのものと全く同じ扱いになっているのです。この考え方は組織のあらゆることに影響を及ぼしています。人々は職務規定に管理され枠にはめられています。

工業時代のマネージャーは人を従業員または部下とみなします。いわゆるアメとムチの考え方で、結果を出せばアメを貰え、失敗すればムチを受けるという表面的な方法でモチベーションを駆り立てようとしています。ロボの鼻先にニンジンをおろ下げる理論と変わらないわけです。

これからの時代は、人材を独自の貢献ができる人、仲間、パートナーとして扱うことになるでしょう。

工業時代の考え方では人間を管理しようとはしますが、これからの時代では人間の人間力や表現力とコミュニケーション力でチームをつくり、方向付けされた自主性を育むことで、工業時代からの解放を目指します。

重要なことは、物は管理し、人間は導くようにすることです。物には選択したり創造する力はありませんが、人間にはその力があります。

故ピーター・ドラッカーは、これからの時代を次のように予告していました。将来、歴史家がこれからの時代を捉えた場合、最も重要な出来事はテクノロジーでもインターネットでもない。人間が置

かれた状況の史上例を見ない変動こそ、最大の出来事である。

今日多くの人々が選択したり創造する自由を手にしており、その人数は急激に増えつつあります。それは史上初めて、人々が自分自身をマネジメントしなければならぬということであると言えます。

つまりこれからの企業は、如何に管理するかということではなく、人をひきつけ、奮起させ、価値のある目標へ導くことができるかが、大切だということです。

このような時代を生きる現代の子どもたちにとって必要な教育は、人間性や表現力などのコミュニケーション能力を高めることであり、すぎのこ芸術文化振興会の「演育」が教育として重要な役割を果たすものと確信しております。

「演育」とは次の通りです。

①知識の教育・感性と心を育む教育・健やかな体を育てる教育を

総合し、演劇的方法の活用によるメソッドを演育と表現する。

②見る、聞く、感じる、考える、話す、伝えるという人としての基礎能力（状況や人を理解し、どうするかを考え、自分を伝える能力）を育むメソッドである。

③多様な価値観がぶつかり合う時代に、人と異なる視点を持つことの大切さと、相手を理解することの大切さを育む。

私たちも大人になると、「全力を出す」「本気で表現する」「夢中になる」のような機会は圧倒的に減少します。

さらに「出る杭は打たれる」のようなことを、知らず知らずのうちに教えられ、無難な生き方を自然に選択するようになっていきます。

しかし、あなたの人生の中にあるすべてのモノやコトは、あなたと大差のない人間がつくったものです。

「演育」が目指す教えを知れば、

人生はもっと広がり、あなたの人生を変えることができるはずです。自分で好きなものをつくり、それを多くの人に観たり、使ったりしてもらうことができます。

誤った考え方を捨て、自分を向上させ、自分の人生を愛し、自分の足跡を残してほしいと思います。何のために学び、なぜ働くのかという在り方を自分の中に持っていれば、途中で投げ出すこともなく、自分自身の価値を最高のレベルで発揮することができるはずです。

これからも、私たち、すぎのこ芸術文化振興会は、子どもたちの未来を育てる財団法人として、人間にしかできない価値を創造する財団法人として、邁進しつづけてまいりますので、本年もこれまで同様のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

れます。都会では自然や四季を感じるのが大変難しくなっています。僕自身、日本の四季や自然は素晴らしいものだと思いますし、

巡回公演だより

いのつぎなあに班

澤田 竜人

巡回公演も何度か行くことで、恥ずかしながらやっとな慣れてきたところ。特に班のお二人には、いろいろ迷惑をかけながらもサポートしていただき、大変助かっています。

子どもたちに生の人形劇を見せるということは、その空間にいる

人や物すべてで一つのものを作るということだと思っています。地域や子どもたち、先生方、公演する場所によって全く違うものになるので、大変面白くやりがいを感じるのと同時に、答えのない難しさも感じています。

「このつぎなあに」のお話は、四季が感じられる演出や音響、美術で構成されています。この四季を子どもたちは敏感に感じ取って、音だけで「冬だ」などと言ってくる



園からの声

おだんごばん

■高麗保育所（埼玉県日高市）

観劇を楽しみに、「おだんごばん」の歌を練習してきました。劇の中で何度も歌うことができたので、より楽しめた気がします。小さい子にも内容が分かりやすく、「楽しかったね」と子どもたちから、たくさん感想を聞くことができました。

■パドマ幼稚園（長野県長野市）

手遊びなども取り入れながらやってくださったので、子どもたちも参加しながら、楽しく観ることができました。いろいろと丁寧に対応してくださり、ありがとうございました。

いのつぎなあに

■美川保育園（島根県浜田市）

季節の移り変わりの場面がよく、真似してみたいと思いました。繰り返しおにぎりを食べるころのリズムが、子どもたちも楽しかったようです。

■井尻幼稚園（岡山県総社市）

始まる前の手遊びは、3〜5歳でもできるとも楽しいものでした。おにぎりを食べるリズムが繰り返し出てきて、子どもも体を動かして踊っていました。分かりやすい内容でよかったです。

ももたろう

■遠山幼稚園・保育園（宮城県宮城郡七ヶ浜町）

子どもたちは大変興味をもって見入っていました。鬼の登場に小さい子は驚いて泣き出すこともありました。

りましたが、鬼と桃太郎たちの戦いのシーンは、面白さに引き込まれていったようで、笑い声も聞かれました。

知っているお話の中に現代風のアレンジや、面白い言葉、繰り返し言葉なども盛り込まれていて、子どもたちもつい声を出してしまうほど面白い内容でした。

保育者も子どもを引きつけるような話の仕方（話術）や人形劇のあり方を学ばせていただいています。いつもながら舞台構成の工夫は素晴らしいです。次はどんな構成？とワクワクしながら観ています。

善と悪、大切な子どもの命、友達といったテーマが、子どもたちに伝わったと思います。

■文化幼稚園（青森県弘前市）

演じる方の動き方や表情の一つ一つに、プロ意識を感じました。子どもたちも知っている話でしたが、勇気、友情をポイントに、それが伝わる内容でした。

挨拶や子どもへの対応がとても丁寧でした。

落ち着いた色合いの舞台セットで、動かし方にも工夫が感じられました。

昔話の定番を見させていただきましたが、改めて昔話の面白さや大切さを感じられました。

■認定こども園にしごう保育園（山形県鶴岡市）

子どもたちにとって親しみのある、よく知っているお話「ももたろう」でしたが、ストーリーに工夫があり、楽しめました。人形だけでなく、演じていた人の表情や声でお話に引き込まれていく感じが素晴らしかったです。

場面展開や細かな演出がとてもよかったです。子どもの笑い声も多く聞かれ、楽しさが伝わってきました。



▲長崎県長崎市あゆみ保育園より

ました。

〈子どもたちの声から〉
・舞台の変化が速くてすごかった。

・海の場面で魚が飛び跳ねていたのが素敵でした。

・「こんなくえねーよー！」の鬼が面白かった。

・ももたろうが鬼につぶされてるところで、キジが鬼の頭をつついて助けに来たところがかっこよかった。

三まいのおふだ

■山王保育園（長崎県長崎市）

「おおきなかぶ」は皆で力を合わせることの大切さであったり、「三まいのおふだ」は約束を守ることの重要さだったりとお話を楽しみながら学ぶことができました。

劇団の方の演技や人形たちが魅力的で、子どもたちが前のめりで見入っている姿が見られました。怖そうなやまんばも、歌や面白い動きが加わることで楽しく見ることができていたように思います。

■久原保育園（佐賀県伊万里市）

毎年この時期が来ると、子どもはもちろん職員も楽しみにしてい

大好きです。ですので、人形劇の世界を通して子どもたちの心に伝わるようにしていきたいです。

また、多くの人に支えられ、この仕事は成り立っていると思えますので、感謝の心を忘れず日々精進してまいります。

三まいのおふだ班

七海 美流歌

三まいのおふだ班は二期、九州を巡回していた。九州は既に馴染みがある地で、久しぶりに降り立った九州は最初こそ暑かったが、今ではすっかり冬の冷たい空気が。

それを改めて気がついた瞬間は、日々色を変えていく木々を見た時だった。雲仙市の山道を車で走っていたら、とても美しい紅葉をまとった木々が私たちを迎えてくれていて、沈む夕陽と混ざり合ったこの光景は、一瞬息をするのを忘れるくらいに素晴らしかった。

自然からの贈り物を心で味わっていると、不思議な事に余裕が私の中に広がって、いろんなもやも



やが静まっていくような感覚に陥る。

そのような心の保養と子どもたちの笑顔、先生方の嬉しい言葉とお気遣いがあるからこそ、旅の道中が色鮮やかなものになっていくのだと思う。

まだこの先も旅は続けられ、上手くやっていけそうな良い予感が胸をくすぐる。

おだんごばん班

星野 翼

「おだんごばん」と、導入としてセリフのない演目の人形ボードヴィルというお話を持ちまして、首都圏班として巡回公演をしています。子どもたちの反応は素晴らしいものばかりで、一つ一つの出来事に対して、とても素直に反応してくれて、なんだかいつも私たちが元氣と笑顔をもらっています。

「おだんごばん」は歌と楽しい手遊びがあり、子どもたちと一緒に作っていくお話だと思います。どの園の子どもたちも元氣いっぱ



いに歌を歌ってくれて、参加してくれて、とても嬉しく思います。

以前先輩方に「おだんごばん」は単純で分かりやすいお話だからこそ、人形の操作は難しいと教えてもらいました。私たちは人形劇をやるうえで、お話を屈ける役として人形操作をしつかりとこなし

ていかなければ、そのお話に込められた思いなど伝えることができません。それはもちろんのこと、子どもたちにお話を屈けるという

気持ちをつねに持ち、楽しいお話を作っていったらと思います。

最後まで「おだんごばん」のお話が、想いが子どもたちに伝わるよう、俳優一同頑張ってまいりますので、よろしくお願いいたします。

ももたろう班

横山 美歩

新年1月からは、ももたろう班は関西地方にお世話になります。その前は東北地方を中心に回っておりまして。秋になりグッと冷え込む日々が続きましたが、鮮やか



ます。

今回は「三まいのおふだ」を観ました。お話の面白い場面や怖い場面（やまんばが登場したところ）になると、笑ったり、怖がって後ろに下がったり、隠れたり、体

いっぱい感情を表す子どもたちでした。それに、バックミュージックを聞き「この曲かわいー」。

また違うメロディーの部分では「きれいだね」など、お話だけでなく音楽にも耳を傾け、感じたままを子どもたち同士で話していたのには驚きました。

和尚さんとやまんばの会話の一人二役や、小坊主さんの動きなど

に色づいた紅葉がたくさん目につき、情緒溢れる穏やかな季節だなと思います。

秋と言えば『赤とんぼ』や『真赤な秋』など季節を楽しむ童謡が多い気がします。保育園・幼稚園で子どもたちがこの歌を歌っていると、素敵な歌など改めて思います。やはり、芸術の秋からでしょう。園の先生からも「秋ですし、人形劇楽しみにしてました」と嬉しい言葉をいただきました。歌や絵画、演劇が盛んになる秋だからこそ、楽しみにしてくれている子どもたちがいることは、非常に励みになります。

配布を開始しました『ももたろうぬりえ』も、早速楽しんでもらっているようです。

これからどんどん寒くなりますが、心温まる人形劇「ももたろう」を届けてまいりますので、関西地方の皆様もよろしくお願いいたします。



演技はもちろんですが、舞台セットには毎回感心しています。（今回は木彫りの人形での「おおきなかぶ」、素材でよかったです。）

終わった後も、保育室まで来ていただき、最後の最後まで楽しませていただきました。

本年の「このつぎなあに」も楽しみにしています。

ねずみの嫁入り・3びきのこぶた

■宇佐美保育園（静岡県伊東市）

お話の内容も知っているもので、笑いのツボに入るととても楽し

く観ることができました。乳児もこわがらずに過ごせてよかったです。

ねずみの嫁入り・ずいてん

■千代田保育園（埼玉県坂戸市）

・0歳〜5歳まで様々な年齢の反応があり、どの年齢も楽しめた。元の作品の要素もしつかりあり、分かりやすかった。

・人形劇が終わってからも、子どもたちの会話の中にお話の内容が出てくるほど、楽しんで観ることができた。

・セットが変わるところが見られたのは新鮮だった。

もぐもぐ劇場班

長谷川 唯

私は、すぎのこに入団して、あと2ヶ月で5年目を迎える。初めて子どもたちの前で上演した時の感覚を鮮明に覚えている。あれから公演を重ね、どうしたら子どもたちにもっと楽しんでもらえるか、子どもたちの反応を元にセリフの言い方や動きを考えるようになった。普通は流れてしまうセリフを、例えば一呼吸置き、さらに声のトーンを少し変えて発してみる。すると流れて行くはずだったその一言に、インパクトが生まれ色が

つく。自分が子どもの気持ちになつて観たら、このシーンはどうだろうか？ そんな客観的な視線を抱えながら動き演じてみる。

年長さん以外は、内容の理解が難しい分、人形や人の動き、しゃべり方、つまり視覚から得られるものや音への関心が強い。だから、こちらが内容を伝えようと演じて

も、思ってもいないところで大笑いしたりする。



大人になるにつれて先入観や周りの感覚に合わせるようになっていく。そういう世の中で生きていくことで、色々なものに抑圧され感情が退化していく。そう考えると、子どもの頃の感覚がいかに特別で素晴らしいものだったか、そして、はかないものなのか思い知らされる。

人形劇の公演は、そんな子どもたちの感情に触れられる貴重な場であり、本来あるべき感情を思い起こさせるヒントをくれます。

独立行政法人日本芸術文化振興会助成事業

「このつぎなあに」

全国巡回公演



芸術文化振興基金 助成事業

最新作「このつぎなあに」は、独立行政法人日本芸術文化振興会「平成30年度芸術文化振興基金」の助成対象として、1学期に九州地方で59公演、2学期に中国地方で118公演を行い、現在は四国地方を巡回しております。子どもたちのみならず、そのご家族や地域の方など、多くの方々に観劇いただいておりますことを心より感謝いたします。

ぜひこの機会に、ナマの人形劇を子どもたちに体験させてあげてください。全国の子どもたちにお会いできるのを楽しみにしております。

【今後の予定】
2018年度
3学期 四国地方
2019年度
1学期 北海道
2学期 九州地方
3学期 関東地方



あけましておめでとうございませす。

いよいよ平成も最後となり、新たな時代に向けて教育改革、働き方改革などがすでに始まっていますが、すぎのこも変革の真っただ中にあり、今年は特に研修センタ

2020年度
1学期 北陸地方
2学期 東北地方
3学期 東海・近畿地方
2021年度
1学期 甲信越地方
2学期 関東地方・沖縄
3学期 関東地方
(福島 亜紀)



ーが移転し初めて迎える新年であり、劇団創立55周年を迎える記念すべき年でもあります。

今までにない他分野の「スポーツ&パリゾート ソプラテイク 狭山」さんとの場所や空間の共有、共同のイベントも増えました。子どもたちに何かを伝えるという共通する部分があったり、他分野からこそお互いに刺激しあえる部分があったりと、日々新しいことへの発見と挑戦と今までにない刺

園からのおたより

～」と言ってくださり、童心にかえったのかもしれないなあと、私も嬉しく思います。

私たちの法人は、子どもには愛と希望を！お年寄りには愛と尊敬を！の理念で、それぞれの場で業がなされています。

「愛」を感じにくい世の中、「愛」をはきちがえている時代ですが、幼い時に本当の「愛」を伝えていきたいと思っております。

もたらうのお話の中にも、その「愛」がしっかり演じられていました。子ども達にもきっと伝わった事と思います。

これからも多くの方々に、すぎのこさんの「愛」を届けて欲しいと願っています。そして観た方々がしっかり「愛」を受け取って、心豊かな歩みをしてほしいと祈っています。

長い旅、大変な事も多いかと思いますが、皆様の健康とご活躍を祈っています。

感謝しつつ
めぐみ子ども園 渋谷 明子

に益々活躍されますようにお祈りしております。

劇団 すぎのこ このつぎ なあにの 皆様

平成30年10月2日

北仙道保育所所長 山崎 静香



青森県西津軽郡深浦町めぐみ子ども園より

すぎのこの皆様

今年は台風が多く、地震等、自然の力を感じ、大人にとっては心配の多い夏を過ごし、秋の風を感じながら、子ども達が安心して日々の生活を過ごせるよう祈る九月を迎えました。

今年も楽しいお話をありがとうございます。子ども達も大好きなお話の人形劇だった事もあり、ポスターを貼り出してから、毎日指折り数えて当日を待ちました。

あいにくの雨で、車での移動、荷物搬入等大変だったかと思いますが、子ども達のために会場作り等、ありがとうございました。

暗い中に自分の身を置き、不安のあった子どももいたようですが、お話の世界にどんどん入り込んでいく子ども達でした。

笑ったり、ドキドキしたり、いろんな“しかけ”に感心させられました。

当園は小さな施設な為、法人の施設（デイサービス、グループホーム）のお年寄りの方々も参加し、老若男女で楽しませていただいています。

終わった後、お年寄りの方が「おもしろかった

島根県益田市北仙道保育所より

涼やかな秋風が吹き、野山のよそおいにも秋の気配が感じられる頃になりましたね。皆様、巡回公演にあちこち行かれてご活躍の事と思います。

先日は『このつぎ なあに』の人形劇の公演に来園下さりありがとうございました。山里に一人暮らしおじいさんといたづらたぬきの交流を描いた心温まるお話にとっても感動しました。子どもたちは、初めて身近で人形劇を観劇することができ、貴重な経験ができました。原作の本を借りてきて、読み聞かせています。お話から人形の場面を浮かべ、しっかり聴いてくれています。年長児が手紙を書きましたので一緒に送付します。ご覧ください。

季節の変わり目、お体にお気をつけくださいませ。毎日が幸せで楽しく過ごせますように、ご壮健

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子どもたちにナマの舞台の感動を届ける仲間（劇団研究生・人形劇俳優）を募集しています。全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさんの方の笑顔に出会えることがこの仕事の魅力です。巡回公演が中心で

すので、長期間の出張が可能な方、子ども好き、旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私たちの活動に参加してみませんか。尚、未経験の方は研修・指導を行います。

又、営業制作も募集しています。

活動内容や条件等、詳しくは左記へ連絡ください。

E-mail: info@sugikoko.org

または04-2968-4721

(狭山研修センター)

活動記録(平成30年10月〜12月)



11/30 人形劇講習会 於・三春幼保園(福島県三春郡)
12/26 第二学期全国巡回公演終了